

準備

OS等の基本的な設定と、作業に使うUNIXユーザーの作成を説明します。

- OSにIPアドレスが振られているところまでは済んでいるとみなしてよいか。
- 自分、または付近のSMTPサーバが利用できることは、確認したほうがよいか。
- ファイアウォールがある場合は、使う予定のポート穴を開けておくべき。主にTomcat用の。
- dspaceグループと、dspaceユーザーの作成。

```
# groupadd dspace
# useradd -g dspace dspace
# passwd dspace
# (新しいパスワードを2回入力)
```

TODO:

それぞれの作業フェーズで、

- 作業ディレクトリ
- 作業ユーザー
- PostgreSQL が作動しているべきか
- Tomcat が作動しているべきか

をはっきりさせられるとよいだろう。

Last-modified: Mon, 06 Sep 2004 08:54:34 JST (0m)

Modified by [Yamamoto](#)

"PukiWiki" 1.4.2 Copyright © 2001,2002,2003 [PukiWiki Developers Team](#). License is [GNU/GPL](#).

Based on "PukiWiki" 1.3 by [sng](#)

Powered by PHP 4.2.2

HTML convert time to 0.015 sec.

開発ツール

Javaの基本的なツールのインストールと、ビルドツールである Apache ant のインストールまでを行います。

- [Java SDK](#)
 - [ダウンロード場所](#)
 - [インストール方法](#)
 - [環境変数の設定](#)
 - [Apache Ant](#)
 - [ダウンロード場所](#)
 - [インストール方法](#)
 - [環境変数の設定](#)
-

Java SDK

Javaのバージョン1.3以降がインストールされている場合は、このステップを飛ばすことができます。調べるには、コマンドラインから

```
$ java -version
```

と入力します。エラーが出る場合、または低いバージョンしかない場合は、下の手順でインストールを行います。

ダウンロード場所

<http://java.sun.com/j2se/1.4.2/download.html> からDownload J2SE SDK を選択し、J2SEをダウンロードします。

インストール方法

ここでは、/usr/local にインストールします。

```
$> su
Password :      rootユーザーのパスワードを入力します。
#> mv j2sdk-1_4_2_04-linux-i586.bin /usr/local
#> cd /usr/local
#> chmod 755 j2sdk-1_4_2_04-linux-i586.bin
#> ./j2sdk-1_4_2_04-linux-i586.bin
#> exit
$>
```

環境変数の設定

環境変数を設定します。dspaceユーザーの「.bash_profile」に下記を追加してください。

Fedoraではデフォルトとしてbashが採用されているため、ここではbashを用いることにします。

```
export JAVA_HOME=/usr/local/j2sdk1.4.2_04
export CLASS_PATH=$JAVA_HOME/lib/tools.jar
```

```
export PATH=$JAVA_HOME/bin:$PATH
```

追加修正後は、

```
$>. ~/.bash_profile
```

で環境変数を即時に変更しておきます。

コマンドラインから再度javaのバージョンを調べて、下のような返事が返ってれば成功です。

```
$ java -version
java version "1.4.2_04"
Java(TM) 2 Runtime Environment, Standard Edition (build 1.4.2_04-b05)
Java HotSpot(TM) Client VM (build 1.4.2_04-b05, mixed mode)
```

Apache Ant

ダウンロード場所

<http://ant.apache.org/bindownload.cgi> からapache-ant-1.6.1-bin.tar.gz を選択し、ダウンロードします。

インストール方法

圧縮ファイルを展開します。ここでは圧縮ファイルが /usr/local/src に格納されているものとし、/usr/local にApache Antを展開します。

```
$> cd /usr/local/src
$> su -
Password :      rootユーザーのパスワードを入力します。
#> gzip -d apache-ant-1.6.1-bin.tar.gz
#> tar xvf apache-ant-1.6.1-bin.tar -C /usr/local
```

環境変数の設定

環境変数を設定します。dspaceユーザーの「.bash_profile」に下記を追加してください。

```
export ANT_HOME=/usr/local/apache-ant-1.6.1
export ANT=$ANT_HOME/bin/ant
export PATH=$ANT_HOME/bin:$PATH
```

追加修正後は、

```
$>. ~/.bash_profile
```

で環境変数を即時に変更しておきます。

コマンドラインから下のように入力してみて、返事が返ってくるようならインストール成功です。

```
$ ant -version
Apache Ant version 1.6.1 compiled on February 12 2004
```

Last-modified: Tue, 29 Jun 2004 17:53:52 JST (68d)
Modified by [Yamamoto](#)

"PukiWiki" 1.4.2 Copyright © 2001,2002,2003 [PukiWiki Developers Team](#). License is [GNU/GPL](#).
Based on "PukiWiki" 1.3 by [sng](#)
Powered by PHP 4.2.2

HTML convert time to 0.027 sec.

PostgreSQL

PostgreSQLのインストールと、DSpaceのインストールに備えた設定までを説明します。

メモ: コンパイルオプションが独特なので、すでにインストールされているPostgreSQLを使うのは望ましくない。できれば既存のPostgreSQLをアンインストールするか、又は別のポート番号で接続できるように棲み分けてインストールするのがよいだろう。

メモ: dspaceユーザーでPostgreSQLのインストールもやってしまうのはどうか。sql叩きたい時に楽し。dspace-info.pl が実行できるようにもなるし。

- [ファイルの取得と展開](#)
- [コンパイル・インストール](#)
- [環境変数](#)
- [データベースの初期化](#)
- [認証・ソケット接続の設定](#)
 - [postgresql.conf](#)
 - [pg_hba.conf](#)
- [postmasterの起動](#)
- [データベースユーザーと、データベースの作成](#)

ファイルの取得と展開

<ftp://ftp.jp.postgresql.org/source/v7.4.2/> からpostgresql-7.4.2.tar.gzを選択しダウンロードします。

取得したアーカイブから、ソースファイルを /usr/local/src に解凍します。

```
$> su -
Password :
#> mv postgresql-7.4.2.tar.gz /usr/local/src
#> cd /usr/local/src
#> gzip -d postgresql-7.4.2.tar.gz
#> tar xvf postgresql-7.4.2.tar
#> chown -R dspace.dspace postgresql-7.4.2
(下の手順に続く)
```

コンパイル・インストール

PostgreSQLをインストールするディレクトリを作成します。ここでは「/usr/local/pgsql」にインストールすることとします。

```
(上の手順から続く)
#> mkdir /usr/local/pgsql
#> chown dspace.dspace /usr/local/pgsql
(下の手順に続く)
```

次にソースのコンパイルとインストールを行います。スーパーユーザーを終了して行います。

```
(上の手順から続く)
#> exit (スーパーユーザーを終了する)
$> whoami (現在のユーザーが dspace であることを確認する)
dspace
$> cd /usr/local/src/postgresql-7.4.2
```

```
$> ./configure --prefix=/usr/local/pgsql --enable-multibyte --enable-unicode --with-java
$> make
(この間、時間がかかります)
$> make install
```

この際、環境変数ANTを設定していないと、configureを実行した時点でエラーとなる場合があります。

環境変数

dspaceユーザーの「.bash_profile」に下記を追加してください。

```
export POSTGRES_HOME=/usr/local/pgsql
export PGLIB=$POSTGRES_HOME/lib
export PGDATA=$POSTGRES_HOME/data
export MANPATH=$MANPATH:$POSTGRES_HOME/man
export LD_LIBRARY_PATH=$LD_LIBRARY_PATH:$PGLIB
export PATH=$POSTGRES_HOME/bin:$JAVA_HOME/bin:$ANT_HOME/bin:$PATH
(以前までの設定で、$JAVA_HOME, $ANT_HOME は設定してあるものとします)
```

追加修正後は、

```
$>. ~/.bash_profile
```

で環境変数を即時に変更しておきます。

データベースの初期化

データベースの初期化を行います。

```
$> whoami (現在のユーザーが dspace であることを確認する)
dspace
$> initdb
```

認証・ソケット接続の設定

/usr/local/pgsql/data に格納されている、postgresql.confとpg_hba.confを変更します。

```
$> cd /usr/local/pgsql/data
$> vi postgresql.conf
(編集)
$> vi pg_hba.conf
(編集)
```

postgresql.conf

30行目付近に、次の一行を追加します。

```
tcpip_socket = true
```

pg_hba.conf

ファイルの最後に、次の一行を追加します。

```
host dspace dspace 127.0.0.1 255.255.255.255 md5
```

postmasterの起動

Postmasterを起動します。

```
$> whoami (現在のユーザーが dspace であることを確認する)
dspace
$> pg_ctl start
```

環境変数 PGDATA が設定されていないと、エラーが発生することがあります。

正常に起動したかどうか、netstat コマンドを使って確認することができます。

```
$> netstat -ln
...
tcp    0    0    0.0.0.0:5432    0.0.0.0:*    LISTEN
...

```

上のような一行が含まれていればよいです。

データベースユーザーと、データベースの作成

PostgreSQLにDspace用のデータベースを作成します。この作業は、postmasterが起動された状態で実行する必要があります。

```
$> whoami (現在のユーザーが dspace であることを確認する)
dspace
$> createdb -U dspace -E UNICODE dspace <---dspaceという名前のデータベース作成
                                     所有者は、dspace ユーザー
CREATE DATABASE
$>
```

initdb コマンドを実行したユーザーは、自動的にそのデータベースのスーパーユーザーとして登録されている。このため、UNIXのdspaceユーザーでinitdbを流した場合、DB上のdspaceユーザーが出来ており、改めて createuser を実行するとエラーになる。それでもインストール全体には支障はない。

```
(このコマンドを実行する必要はない。)
$> createuser dspace PostgreSQLにユーザを作成(ユーザ名: dspace)
```

"PukiWiki" 1.4.2 Copyright © 2001,2002,2003 [PukiWiki Developers Team](#). License is [GNU/GPL](#).
Based on "PukiWiki" 1.3 by [sng](#)
Powered by PHP 4.2.2

HTML convert time to 0.035 sec.

Tomcat

JAVAサーブレットを実行するための環境である Jakarta Tomcat のインストールと、DSpaceのインストールに備えた設定までを説明します。

- [ダウンロード場所](#)
 - [インストール](#)
 - [環境変数の設定](#)
 - [動作確認](#)
-

ダウンロード場所

<http://jakarta.apache.org/site/binindex.cgi> からjakarta-tomcat-4.1.30.tar.gz を選択しダウンロードします。

インストール

jakarta-tomcat-4.1.30.tar.gz を展開します。ここでは、一旦 /usr/local/src に移動してから展開します。展開先は、ここでは /usr/local にします。

```
$> su -
Password :      rootユーザーのパスワードを入力します。
#> mv jakarta-tomcat-4.1.30.tar.gz /usr/local/src
#> cd /usr/local/src
#> gzip -d jakarta-tomcat-4.1.30.tar.gz
#> tar xvf jakarta-tomcat-4.1.30.tar -C /usr/local
#> chown -R dspace.dspace /usr/local/jakarta-tomcat-4.1.30
#> exit (スーパーユーザーを終了する)
$>
```

環境変数の設定

dspaceユーザーの「.bash_profile」に下記を追加してください。

```
export JAVA_OPTS="-Xmx512M -Xms64M -Dfile.encoding=UTF-8"
```

追加修正後は、

```
$>. ~/.bash_profile
```

で環境変数を即時に変更します。これは、dspaceユーザーで行います。

動作確認

(動作確認は、必ずしも必要ではありません。)

Tomcatが動作することを確認します。

```
$> whoami (現在のユーザーが dspace であることを確認する)
dspace
$> cd /usr/local/jakarta-tomcat-4.1.30/bin
$> ./startup.sh
```

正常に起動したかどうか、netstat コマンドを使って確認することが出来ます。

```
$> netstat -ln
...
tcp    0      0  0.0.0.0:8080          0.0.0.0:*           LISTEN
...
```

上のような一行が含まれていればよいです。

ブラウザを起動させて以下のアドレスを入力し、Tomcatの初期画面が表示されるかを確認します。

```
http://このコンピュータの場所:8080/
```

動作が確認できたら、いったんtomcatを終了します。

```
$> cd /usr/local/jakarta-tomcat-4.1.30/bin
$> ./shutdown.sh
```

Last-modified: Wed, 30 Jun 2004 16:16:52 JST (67d)

Modified by [Yamamoto](#)

"PukiWiki" 1.4.2 Copyright © 2001,2002,2003 [PukiWiki Developers Team](#). License is [GNU/GPL](#).

Based on "PukiWiki" 1.3 by [sng](#)

Powered by PHP 4.2.2

HTML convert time to 0.022 sec.

DSpaceインストール1

- [ソースファイルの取得と展開](#)
 - [Javaライブラリーの追加](#)
 - [activation.jar](#)
 - [servlet.jar](#)
 - [mail.jar](#)
 - [JDBCドライバ\(postgresql.jar\)](#)
 - [インストール先ディレクトリの準備](#)
-

ソースファイルの取得と展開

<http://prdownloads.sourceforge.net/dspace/dspace-1.1.1.tar.gz?download> から dspace-1.1.1.tar.gz をダウンロードします。

その後、 dspace-1.1.1.tar.gz を /usr/local/src に解凍します。

```
$> su -
Password : (パスワードを入力)
#> cd [ダウンロードしたディレクトリの場所]
#> mv dspace-1.1.1.tar.gz /usr/local/src
#> cd /usr/local/src
#> gzip -d dspace-1.1.1.tar.gz
#> tar xvf dspace-1.1.1.tar
#> chown -R dspace.dspace /usr/local/src/dspace-1.1.1-source
#> exit
$>
```

Javaライブラリーの追加

以下のJavaライブラリーを、 /usr/local/src/dspace-1.1.1-source/lib に追加格納します。

activation.jar

<http://java.sun.com/products/javabeans/glasgow/jaf.html> から [JavaBeans? Activation Framework](#) をクリックし、 jaf-1_0_2-upd.zip をダウンロードします。 jaf-1_0_2-upd.zip を展開し、生成される activation.jar を上記ディレクトリにコピーします。

```
$> cd [展開したディレクトリ]
$> cp activation.jar /usr/local/src/dspace-1.1.1-source/lib
```

servlet.jar

<http://java.sun.com/j2ee/ja/jsp/download.html> から [Java Servlet 2.3 and JSP 1.2](#) をクリックし、 jsp-1_2-fcs-classfiles.zip をダウンロードします。 jsp-1_2-fcs-classfiles.zip を展開し、生成される servlet.jar を上記ディレクトリにコピーします。

```
$> cd [展開したディレクトリ]
$> cp servlet.jar /usr/local/src/dspace-1.1.1-source/lib
```

mail.jar

<http://java.sun.com/products/javamail/downloads/index.html>からJavaMail1.3.1 をクリックし、javamail-1_3_1-upd.zipをダウンロードします。javamail-1_3_1-upd.zipを展開し、生成されるmail.jarを上記ディレクトリにコピーします。

```
$> cd [展開したディレクトリ]
$> cp mail.jar /usr/local/src/dspace-1.1.1-source/lib
```

JDBCドライバ(postgresql.jar)

PostgreSQL JDBCドライバを、上記ディレクトリにコピーします。以前に行ったPostgreSQLのコンパイルの途中でpostgresql.jar というファイルがすでに生成されているはずなので、それをコピーします。

```
$> cd /usr/local/src/postgresql-7.4.2/src/interfaces/jdbc/jars/
$> cp postgresql.jar /usr/local/src/dspace-1.1.1-source/lib
```

インストール先ディレクトリの準備

Dspaceをインストールするディレクトリを作成します。ここでは/usr/local/dspaceにインストールすることにします。

```
$> su -
Password : (パスワードを入力)
#> mkdir /usr/local/dspace
#> chown dspace.dspace /usr/local/dspace
#> exit
$
```

Last-modified: Wed, 30 Jun 2004 17:47:07 JST (67d)

Modified by [Yamamoto](#)

"PukiWiki" 1.4.2 Copyright © 2001,2002,2003 [PukiWiki Developers Team](#). License is [GNU/GPL](#).

Based on "PukiWiki" 1.3 by [sng](#)

Powered by PHP 4.2.2

HTML convert time to 0.025 sec.

DSpaceインストール2

- [dspace.cfg の設定](#)
 - [dspace.dir](#)
 - [dspace.url](#)
 - [dspace.hostname](#)
 - [dspace.name](#)
 - [Destinations for configuration files for other tools 部分](#)
 - [db.url](#)
 - [db.driver](#)
 - [db.username](#)
 - [db.passwd](#)
 - [mail.sever](#)
 - [mail.---](#)
 - [assetstore.dir](#) 他
 - [upload.temp.dir](#)
 - [upload.max](#)
 - [handle.prefix](#)
 - [handle.dir](#)
 - [webui.site.authenticator](#)
 - [webui.cert.ca](#)
-

dspace.cfg の設定

DSpaceのインストールのために、設定ファイルdspace.cfgの変更を行います。

```
$> cd /usr/local/src/dspace-1.1.1-source/config
$> vi dspace.cfg
```

以下の項目を探して、環境にあわせて設定を変更します。

dspace.dir

DSpaceをインストールするディレクトリを設定します。

```
dspace.dir = /usr/local/dspace
```

dspace.url

DSpaceにブラウザからアクセスする際のURLを設定します。

```
dspace.url = http://127.0.0.1:8080/dspace
```

dspace.hostname

DSpaceのホスト名を設定します。

```
dspace.hostname = dspacer (サーバーのホスト名を入力)
```

dspace.name

DSpaceのサイトのタイトルを設定します。この設定は初期状態のままでも構いません。サイトのWebページに表示されるので、各機関の名前に変えるとよいでしょう。(ただし、日本語名を表示させたい場合はそのままでは文字化けしますので、native2ascii コマンドでエンコードする必要があります。)

```
dspace.name = DSpace at My University
```

Destinations for configuration files for other tools 部分

```
##### Destinations for configuration files for other tools #####  
  
# Comment out any lines corresponding to files you don't need, so they  
# don't get copied
```

とコメントされている部分の設定に関しては、パス中の /dspace となっている部分を、各環境にあわせて変更します。下に、/usr/local/dspace と変更する場合の例を示します。

```
config.template.apache13.conf = /usr/local/dspace/config/httpd.conf  
config.template.log4j.properties= /usr/local/dspace/config/log4j.properties  
config.template.log4j-handle-plugin.properties=/usr/local/dspace/config/  
log4j-handle-plugin.properties (実際は一行)  
config.template.oaicat.properties=/usr/local/dspace/config/oaicat.properties  
config.template.oai-web.xml=/usr/local/dspace/oai/WEB-INF/web.xml
```

db.url

データベースのURLを設定します。PostgreSQLにアクセスするためのポート番号を初期状態から変更している場合は、"5432"の部分を適宜変更してください。/dspace の部分は、接続するデータベースの名前を入れます。

```
db.url = jdbc:postgresql://localhost:5432/dspace
```

db.driver

データベースドライバのクラス名を設定します。この設定は変更しません。

```
db.driver = org.postgresql.Driver
```

db.username

postgreSQLに接続するユーザー名を設定します。

```
db.username = dspace
```

db.passwd

postgreSQLに接続するユーザーのパスワードを設定します。

```
db.password = dspace
```

mail.sever

SMTPメールサーバーの設定です。DSpaceからのメール送信に用いられます。

```
mail.server = (利用できるSMTPサーバーのIPまたは名前)
```

mail.---

DSpaceが各所で利用するメールアドレスを設定します。各環境にあわせて設定します。

```
mail.from.address = (メール送信の際、From: に表示されるアドレス)  
feedback.recipient = (フィードバックフォームからのメールを受け取るアドレス)  
mail.admin = (各所に表示される、管理者のメールアドレス)
```

assetstore.dir 他

アップロードしたファイルを格納するディレクトリを設定します。初期状態では /dspace/assetstore のように設定されているので、/dspace の部分を各環境に合わせて設定してください。ここでは

```
assetstore.dir = /usr/local/dspace/assetstore
```

のように設定します。以下の history.dir、search.dir、log.dir も同様に環境に合わせて設定してください。

```
history.dir = /usr/local/dspace/history  
search.dir = /usr/local/dspace/search  
log.dir = /usr/local/dspace/log
```

upload.temp.dir

データをアップロードする際の一時ディレクトリを設定します。この設定は変更しなくて構いません。

```
upload.temp.dir = /tmp
```

upload.max

アップロードするファイルのサイズの上限を設定します。この設定は変更しなくて構いません。

```
upload.max = 536870912
```

handle.prefix

ハンドルを設定します。この設定はさしあたり初期状態のままですが、将来ハンドルサーバーに登録したときは、割り当てられた値をここに設定する必要があります。

```
handle.prefix = 123456789
```

handle.dir

ハンドルサーバーファイルをインストールするディレクトリを設定します。パスを適宜書き換えます。

```
handle.dir = /usr/local/dspace/handle-server
```

webui.site.authenticator

この設定は初期状態のままです。

webui.cert.ca

パスを各環境に合わせて設定してください。ここでは

```
webui.cert.ca = /usr/local/dspace/etc/certificate-ca.pem
```

と設定します。

以下の項目は初期状態のままです。

- webui.cert.autoregister
- webui.submit.blocktheses
- default.language

Last-modified: Wed, 30 Jun 2004 18:04:23 JST (67d)
Modified by [Yamamoto](#)

"PukiWiki" 1.4.2 Copyright © 2001,2002,2003 [PukiWiki Developers Team](#). License is [GNU/GPL](#).
Based on "PukiWiki" 1.3 by [sng](#)
Powered by PHP 4.2.2

HTML convert time to 0.043 sec.

DSpaceインストール3

- [DSpaceのインストール](#)
- [DSpaceの初期設定コマンド](#)
- [TomcatからDSpaceを実行する設定](#)
 - [シンボリックリンク](#)
 - [server.xml](#)

DSpaceのインストール

DSpaceを解凍したディレクトリに移動します。antコマンドでコンパイルを実行し、インストールまでを行いません。

```
$> cd /usr/local/src/dspace-1.1.1-source
$> ant compile
```

ant compile コマンドの実行中に、

```
[javac] 注: 一部の入力ファイルは推奨されない API を使用またはオーバーライドしています。
[javac] 注: 詳細については、-deprecation オプションを指定して再コンパイルしてください。
```

と表示されることがありますが、問題はありません。

```
$> ant fresh_install
```

これで指定したディレクトリ下にDSpaceがインストールされます。

この作業は、postmasterが起動した状態で行う必要があります。Jakarta Tomcat が起動している必要はありません。

DSpaceの初期設定コマンド

DSpaceをインストールしたディレクトリのbinに移動し、install-configsを実行します。さまざまな設定テンプレートファイルが必要な場所にインストールされます。

続けて、index_all コマンドで、検索インデックスを初期化します。

create-administrator コマンドで、DSpaceの管理者ユーザーを作成します。

```
$> cd /usr/local/dspace/bin
$> ./install-configs
$> ./index-all
$> ./create-administrator
E-mail address: (管理者のメールアドレスを入力)
First name: (管理者の First name)
Lirst name: (管理者の Last name)
Password: (管理者のログインパスワード)
Again to confirm: (確認にもう一度パスワード)
Is the above data correct? (y or n): y
```

この作業は、postmasterが起動した状態で行う必要があります。Jakarta Tomcat が起動している必要はありません。

TomcatからDSpaceを実行する設定

シンボリックリンク

TomcatのディレクトリからDSpaceを見られるように、シンボリックリンクを生成します。

```
$> cd /usr/local/jakarta-tomcat-4.1.30/webapps
$> ln -s /usr/local/dspace/jsp dspace
$> ln -s /usr/local/dspace/oai dspace-oai
```

server.xml

Tomcatの設定ファイルを変更して、DSpaceをアプリケーションとして登録します。

/usr/local/jakarta-tomcat-4.1.30/conf/server.xml に、記述を追加します。

234行目付近

```
<Host name="localhost" debug="0" appBase="webapps"
  unpackWARs="true" autoDeploy="true">
```

の下に、

```
<Context path="/dspace" docBase="dspace" debug="0"
  reloadable="true" crossContext="true">
<Resources className="org.apache.naming.resources.FileDirContext"
  allowLinking="true" />
</Context>
<Context path="/dspace-oai" docBase="dspace-oai" debug="0"
  reloadable="true" crossContext="true">
<Resources className="org.apache.naming.resources.FileDirContext"
  allowLinking="true" />
</Context>
```

ここで、path=xxxxxx 部分は <http://host:port/path> の 'path' 部分に相当します。また、docBASE=xxxxxx はサーバー内のディレクトリを指定します。

Last-modified: Wed, 30 Jun 2004 18:09:01 JST (67d)

Modified by [Yamamoto](#)

"PukiWiki" 1.4.2 Copyright © 2001,2002,2003 [PukiWiki Developers Team](#). License is [GNU/GPL](#).

Based on "PukiWiki" 1.3 by [sng](#)

Powered by PHP 4.2.2

HTML convert time to 0.025 sec.

DSpaceインストール4

- [起動](#)
 - [動作確認](#)
-

起動

Tomcatを起動します。

```
$> whoami (現在のユーザーが dspace であることを確認する)
dspace
$> cd /usr/local/jakarta-tomcat-4.1.30/bin
$> ./startup.sh
```

動作確認

ブラウザにてDspaceのURLを入力し、動作確認をします。

```
http://コンピュータの場所:8080/dspace
```

(ココに画面コピー)

上のような画面が表示されたら、インストール成功です。

また、下のようなURLも入力し、oaiプロバイダ機能が動作するかも確認します。

```
http://コンピュータの場所:8080/dspace-oai/?verb=Identify
```

(ココに画面コピー)

Last-modified: Wed, 30 Jun 2004 18:16:15 JST (67d)

Modified by [Yamamoto](#)

"PukiWiki" 1.4.2 Copyright © 2001,2002,2003 [PukiWiki Developers Team](#). License is [GNU/GPL](#).

Based on "PukiWiki" 1.3 by [sng](#)

Powered by PHP 4.2.2

HTML convert time to 0.014 sec.

追補

- [最終的にできあがる .bash_profile の例](#)
- [インストールに結局必要だったアーカイブファイル一覧](#)
- [DSpaceサーバー自動起動設定](#)

最終的にできあがる .bash_profile の例

(山本:自分の環境では、PostgreSQLもdspaceユーザーでインストールするのを試しているところなので、従来 postgres ユーザーで設定するものもすべて含んでいます。)

(JAVAのインストール場所や動作オプションを設定しています)

```
export JAVA_HOME=/usr/java/j2sdk1.4.2_04
export CLASS_PATH=$JAVA_HOME/lib/tools.jar
export JAVA_OPTS="-Xmx512M -Xms64M -Dfile.encoding=UTF-8"
```

(Apache ANTのインストール場所とantコマンドの場所を設定しています)

```
export ANT_HOME=/usr/local/apache-ant-1.6.1
export ANT=$ANT_HOME/bin/ant
```

(PostgreSQLの環境を設定しています)

```
export POSTGRES_HOME=/usr/local/pgsql_d
export PGLIB=$POSTGRES_HOME/lib
export PGDATA=$POSTGRES_HOME/data
export MANPATH=$MANPATH:$POSTGRES_HOME/man
export LD_LIBRARY_PATH=$LD_LIBRARY_PATH:$PGLIB
```

(コマンドの探索パスを設定しています。OSに最初からインストールされているバージョンのコマンドが優先的に実行されないように、\$PATHは最後にくっつけています)

```
export PATH=$JAVA_HOME/bin:$ANT_HOME/bin:$POSTGRES_HOME/bin:$PATH
```

インストールに結局必要だったアーカイブファイル一覧

インストールする時点によって、ファイルのバージョン部分は多少変化するかも知れません。

```
$ cd /usr/local/src
$ ls
( Apache ANTのアーカイブ )
apache-ant-1.6.1-bin.tar.gz
( DSpaceのアーカイブ )
dspace-1.1.1.tar.gz
( JAVAのインストーラー )
j2sdk-1_4_2_04-linux-i586.rpm
( JAVA Activation Framework. activation.jar をここから得た )
jaf-1_0_2-upd.zip
( Jakarta Tomcatのアーカイブ )
jakarta-tomcat-4.1.30.tar.gz
( Java mail. mail.jar をここから得た )
javamail-1_3_1-upd.zip
( JSP API. servlet.jar をここから得た )
jsp-1_2-fcs-classfiles.zip
( PostgreSQLのアーカイブ )
postgresql-7.4.2.tar.gz
```

DSPACEサーバー自動起動設定

サーバーの自動起動設定を行ないます。ただし、ここでの設定方法は本インストールドキュメント通りにDSPACEのインストールを進めた場合にのみ適応できます。設定を変更してインストールした場合には動作しない可能性があります。

rootユーザーにてログインし、以下のコマンドラインを実行していきます。

```
#> cd /etc/init.d
#> vi dspace
```

ここで図 1 のように入力し、保存します。保存後、次の操作を行ないます。

```
#> chmod 755 dspace
#> cd ../rc3.d
#> ln -s ../init.d/dspace S99dspace
#> cd ../rc6.d
#> ln -s ../init.d/dspace K99dspace
```

図 1

```
#!/bin/bash
# Startup script for the DSpace Server

export JAVA_HOME=/usr/local/j2sdk1.4.2_04

export POSTGRES_HOME=/usr/local/pgsql
export PGLIB=$POSTGRES_HOME/lib
export PGDATA=$POSTGRES_HOME/data
export MANPATH=$MANPATH:$POSTGRES_HOME/man
export LD_LIBRARY_PATH=$LD_LIBRARY_PATH:$PGLIB
export PATH=$PATH:$POSTGRES_HOME/bin

TOMCAT_BASE=/usr/local/jakarta-tomcat-4.1.30
POSTGRE_BASE=/usr/local/pgsql

case "$1" in
'start')
## -- DSpace Start -- ##
# Tomcat Start...
$TOMCAT_BASE/bin/startup.sh
echo "Tomcat is Starting..."

# PostgreSQL Start
su postgres -c $POSTGRE_BASE'/bin/pg_ctl start'
echo "PostgreSQL is Starting..."
;;
'stop')
## -- DSpace Stop -- ##
# Tomcat Stop...
$TOMCAT_BASE/bin/shutdown.sh
echo "Tomcat Stop..."

# PostgreSQL Stop
su postgres -c $POSTGRES_BASE'/bin/pg_ctl stop'

echo "PostgreSQL Stop..."
;;
*)
echo $"Usage: $0 {start|stop}"
exit 1
;;
esac
exit 0
```

"PukiWiki" 1.4.2 Copyright © 2001,2002,2003 [PukiWiki Developers Team](#). License is [GNU/GPL](#).
Based on "PukiWiki" 1.3 by [sng](#)
Powered by PHP 4.2.2

HTML convert time to 0.025 sec.